

## 度胸と鈍感さは表裏一体

高野 文夫 NPO日本プレゼンテーション協会理事長

作家の渡辺淳一氏はその著書『鈍感力（集英社）』でこう言っています。作家として生き残るためには、才能だけではダメで、ある種の凶太さ、たくましさ、鈍感さが必要だと・・・。

彼の最大の出世作『失樂園』にしても・・・、石原慎太郎氏の出世処女作『太陽の季節』にしても、世の人々を釘付けにした、クライマックス場面は、大概の人が考えもつかない、悪い言葉では、えげつない！超官能的かつ驚愕のセックス描写なのです。

失樂園の最後の場面、心中した二人の体は一体となり、何人かの警官が力づくで剥がそうにも一向に剥がれなかった・・・、とか、

石原慎太郎氏の太陽の季節のクライマックス場面・・・、障子だか襖（ふすま）だったか、忘れたが・・・、向こうの部屋にいる、最高の美女で気立てのよい彼女に向かって、自身の一物を金槌のようにガチガチに固めて、その壁をぶち破った・・・と書いている。

三島由紀夫の処女作『潮騒』もしかり・・・、禪を脱いで素っ裸になった青年が、一物を角のように掲げて、たき火を飛び越えて彼女をそして心までゲットしたのです。

でも、今の草食系の子女には通用するのだろうか??  
する、する！ 私は確信する。上野のパンダだってしっかり立ったって、ガッツあるね！

国を挙げて大拍手だ！失樂園の読者層は正に草食系（実は隠れ肉食系）エリートばかりだったとの調査結果があるのです。

そのような事を臆せず描写できることで、一気に有名になったのです。このことは作家稼業だけでなく、社会的成功者全般に言えることでしょう。

ある種の鈍感さが、自律神経系に麻酔をかけているようなもので、会社の上司などに叱られても、『愛情が無ければ叱ってくれまい』・・・と考える。

彼女が怒って喰ってかかってきても・・・、『本気だから、愛情があるから怒るんだ』・・・位に考えて物事を前向きにとらえて再チャレンジをするのです。自分に都合の良いように変換してしまうのです。

こう考えると、鈍感さとは、人間の心を生理学的に味方に付ける成功の増幅法だと考えられる。

そして繰り返します。度胸は鈍感さの兄弟でもある。でも実はナイーブな敏感さにも結び付いているのです。鈍感さは、かえって成功に敏感になれるのです。

鈍感と敏感は双子なんだよね！！そしてそれが健康的な生き方につながっているのです。



最後までお読みいただき有難うございました。

おわり